

長野県食と農業農村振興審議会南信州地区部会議事録

1 日時 令和7年7月2日(水) 10:00 から 12:00 まで

2 場所 長野県飯田合同庁舎 講堂

3 出席委員

宮下猛（長野県農業経営者協会下伊那支部長）
松村幸子（長野県農村生活マイスター協会飯伊支部長）
伊藤友子（株式会社七久里農園）
伊藤祐哉（松川町若手農業者の会若武者）
大島理可（長野県農業委員会女性協議会南信州支部長）
塩澤昇（みなみ信州農業協同組合常務理事） 部会長
武田登（長野県小渋川土地改良区理事長）
小澤めぐみ（飯田下伊那栄養教諭・学校栄養職員部会顧問）
塩沢健一（飯田市産業経済部農業課長）

4 次第

- (1) 開会（南信州農業農村支援センター所長 本井浩）
- (2) あいさつ（南信州地域振興局長 岩下秀樹）
- (3) 協議事項（議長：部会長 塩澤昇）
 - ア 第4期長野県食と農業農村振興計画の概要について
 - イ 令和6年度南信州地域計画の取組実績について
 - ウ 令和7年度南信州地域計画の実行計画について
 - エ 長野県食と農業農村振興計画の推進に関する意見・提言
- (4) 閉会（南信州農業農村支援センター所長 本井浩）

5 長野県食と農業農村振興計画の推進に関する意見・提言

【宮下猛委員】

・野生鳥獣対策について、農作物被害だけでなく、住民の命と暮らしの問題になっている現状から、広く住民が参加する河川清掃のように地域全体で環境整備をする必要がある。

・水路など農業用施設の長寿命化について、農業用水取水口が自動化されておらず、管理作業上、非常に危険。また、ダムの放流に伴い砂が水路に入り込んで苦慮している。安全で管理しやすい水路を検討願いたい。

（農地整備課 小林課長）

取水ゲートの自動化や砂の流入防止について、課題や地元の意向を確認する中で、市と連携して相談対応してまいりたい。

・小中学校の農業体験等は、担い手を確保する上での種まきとして重要。しかし、現状、中学の職業体験で農業の希望がない。先生等指導者も含めて、体験の機会が必要。

（本井所長）

農業体験については、当センターとしても積極的に関わっていききたい。県で作成した中高生向けの就農ガイドブックも活用する中で、農業の魅力を幅広く伝えていきたい。

・コロナ前には、ワーキングホリデーの取組が多くあり、都市農村交流だけでなく、地域内の農業者間のつながりや体験の機会にもなっていた。関係者と連携して再度取り組んではどうか。

【松村幸子委員】

儲かる農業とするためには、ひとつひとつの技術を丁寧の実施し良い商品を作ることが重要。特に、親から経営を引き継ぐ場合であっても、講習会での丁寧な技術の習得が必要。

市田柿の生産においては、出荷されたものの検品で乾燥不十分により返品となってしまうことがある。経営安定のため、より多くの秀品が出荷できるようきめ細かい技術指導をお願いしたい。

(本井所長)

講習会や研修会においては、JAとともに、できるだけわかりやすく丁寧な説明をしてまいりたい。

【伊藤友子委員】

・学校給食での県産食材の利用は、物価高騰により進んでいないとのことであるが、資材や人件費等生産費が上がり、農産物価格が上がったのであって、決して高くはないことを消費者に理解してもらう必要がある。

(本井所長)

農産物の適正流通、適正価格について、消費者への啓発をしていきたい。

・農業参入を目指す食品企業への支援だけでなく、現在ある地域の食品加工業も含めての支援をお願いしたい。

・農業での外国人就労者や新規就農者を受け入れるにあたっては、その地域で大切にしているものや考えなどの教育が必要。

(本井所長)

里親研修生への対応については、里親と協力して地域の考え等を伝えていきたい。

【伊藤祐哉委員】

近年の果樹生産においては、梅雨明け後の高温・干ばつが、その後の品質や収量に大きく影響しており、安定生産ができない状況となっている。気候変動に対応したかん水施設や遮光ネット導入等の補助事業や対策技術の普及が必要。

(本井所長)

高温対策技術、品種の開発については試験場へ、補助事業については県へ要望を伝えたい。

(農地整備課 小林課長)

気候変動対策として、利用が低調となってきたため池の水を活用する等の検討もしていきたい。

・観光農園の中で、くだものの作り方や食べ方などを説明するガイドウォークの要望が増えており、さらに現場で農業者の話聞く、小中学生のキャリア教育や社会見学としての利用もある。修学旅行等宿泊も絡めることができれば、都市住民との接点として、地域の活性化に有望ではないか。

(本井所長)

今後も取組をお願いしたい。また、事例やご提案を県へ伝えたい。

【大島理可委員】

標高差、寒暖差を活かした多品目生産ができる地域性を活かし、複合経営や複合産地づくりを進めていくことが重要。異常気象で従来の作付体系では安定生産ができない中で、品種特性や早晩性、リレー出荷などを組み合わせる工夫が必要。

(本井所長)

市田柿＋きゅうりを進めているところだが、地域性を活かし、他の品目でも組み合わせができれば進めていきたい。

【武田登委員】

・近年、夏から秋の高温により、りんごやぶどう、米の品質低下が著しい。品種や栽培方法の見直し等対策技術の指導をお願いしたい。

（本井所長）

高温対策技術、品種の開発については試験場へ、補助事業については県へ要望を伝えたい。

・昨年、10年後の農業を検討し、地域計画を策定した。担い手が取り組みやすいよう農地を集積していく意識が必要。

（本井所長）

現地支援チームとしても、市町村と連携し、担い手への農地集積を進めていきたい。

・野生鳥獣対策では、防護柵の劣化により被害が出ており補修が必要となっているため、補助等の支援をお願いしたい。

（本井所長）

要望を県へ伝えたい。

・多面的機能支払いの交付単価引き上げや水利施設の補修への支援拡充をお願いしたい。

（農地整備課 小林課長）

要望を県へ伝えたい。

【小澤めぐみ委員】

・小学校4年生の総合学習で、明日、ドローンやアイガモロボを活用している企業的な農家、かっこいい農業の見学を予定している。農業農村支援センターや地域の農家と連携することで実現でき、今の農業への理解やキャリア教育の観点からも良い取組になると考えている。

（本井所長）

若いうちの農業体験が、その他の社会経験を経て、就農に繋がることも多く、非常に大切な取組と考えていますので、ご協力をお願いしたい。

・小中学校の栄養教諭の中で、昨年、学校給食に伝統野菜を取り入れる活動を行い、さらに今年は地域食材を使った献立を持ち寄ってレシピ集を作った。給食には地元食材、県内食材を優先して使用しており、給食費の制約もあるが、県品種のぶどうや南信州牛等のおいしい地域食材もあるので、できる限り取り入れる努力をしていきたい。また、それに協力いただける団体等があればありがたい。

【塩沢健一委員】

・飯田市では、昨年4月にオーガニックビレッジ宣言をし、環境にやさしい農業を進める中で、「みやまし農産物認証」という市独自の相互認証制度を創設した。令和6年度は、13件、121品目を認証した。今後、認証農産物の学校給食での利用や県認証へのステップアップ等への取組を進めていきたい。

・農業法人の代表もしている市議会議員から、就農の際の障壁について指摘があった。通常、資金、技術、経営スキルの不足などを考え、これまでの農業を踏襲した研修を行うことで対応しているが、これが障壁となっており、「新しい農業」へのニーズにも対応する必要があるのではないかとのことであった。市としても、多くの就農希望者に来てもらえるよう検討していきたい。

（本井所長）

現在、環境モニタリングデータを活用した技術実証に取り組んでいる。これらを発展させる中で、ス

マート農業機器を活用した新しい農業への対応も検討していきたい。

【塩澤昇委員】

・JAでは、これまで日本なしや市田柿の生産振興プロジェクトを行ってきたが、今年からの3年計画の中では、野菜や花きについても重点的に取り組むこととしている。特に野菜では、きゅうりの産地力強化とアスパラガス産地の再構築、花きでは、露地ダリアや南天、コニファーの推進など、地域ごとに品目を検討し行政と連携して進めていきたい。

・これまで水稻の防除でのドローン活用を推進してきており、今後も品質安定のため啓発していきたいと考えている。一方、水稻以外、特に果樹、柿の防除での活用については、その効果、農薬の登録等の課題もあり進んでいないため、試験等をお願いしたい。

(本井所長)

要望を県へ伝えたい。

【高田清人委員（欠席、事前に意見等があり紹介）】

・農村女性に、農業以外の職業でいられる自由が必要ではないか。

・南限北限の多品目栽培ができる強みを生かすべき。

・スマート農業技術は、中山間地域の技術にはなっていない。中山間地域で実用化できる技術が必要。

(本井所長)

要望を県へ伝えたい。

・米価高騰といわれるが、決して高くない。農産物全般に価格が安い。海外の大規模農業を基準とした価格ではなく、中山間地域が多い日本での適正価格が必要。

(本井所長)

食育、地産地消の推進を含め、再生産可能な価格での取引への理解醸成に努めてまいりたい。

【岩下局長（まとめ・御礼）】

農業の関係は、生産振興だけでなく、食育、農業体験など教育、観光、交流の視点からも、引き続き政策を進めてまいりたい。ご意見ご要望等、引き続きお寄せいただき、また、ご協力をお願いしたい。ありがとうございました。